

令和2年度 社会福祉法人かえつ福祉会事業まとめ

【かえつ福祉会理念】

わたしたちは「いつでも、どこでも、誰でもが安心できるケア」を提供し、地域住民と利用者とともに安心して住み続けられるまちづくりの実現を目指します。

【施設運営理念】

- 利用者の立場に立ち人権を尊重した運営を行います。
- 医療との連携を強め、障害があっても最後までその人らしく暮らせる施設を目指し、利用者とそのご家族が納得できるように支援します。
- 利用者の人権を尊重し個人の尊厳を守ります。
家庭的な雰囲気の中で一人一人の個性や生活のペースを大切にされた健康的な生活と、利用者が相互に社会的関係を築き、自立と自由を大切にされた日常生活が送れるよう支援します。
- 利用者が地域の一員として地域や家族との結びつきや交流を大切にして、安心して暮らせるように支援・活動をすすめます。
- 地域に開かれた施設として地域の声に耳を傾けながら、人の集う場の提供や多様な機関等と連携・協働する、地域とともに発展する組織を目指します。

【法人概要】

法人名	社会福祉法人かえつ福祉会
代表者名	理事長 山川 良一
主たる事務所の所在地	新潟市秋葉区東金沢 1459 番地 5
認可年月日	平成 24 年 10 月 25 日
設立登記年月日	平成 24 年 10 月 26 日
役員数	理事 6 名、監事 2 名、評議員 8 名

【事業】

- ① 特別養護老人ホームあがうら
- ② 特別養護老人ホームあがうらショートステイ
- ③ グループホームあがうら^{なごみ}和

【職員総数】

(令和3年3月31日現在) 97人

【法人基本総括】

1. 特養の運営と共に、新潟市地域包括ケア計画、第7期平成31年度事業計画より、令和2年4月より認知症対応型老人共同生活援助事業を開始しました。
新型コロナ禍の影響もみられ、10月に満室、入居率86.2%となりました。
地域密着型サービス事業所として、2か月に1回の運営推進会議をホーム内で実施しま

した。ご家族、包括支援センター、阿賀浦コミ協、協力病院、協力施設、他グループホームよりの参加を得、各参加者からの意見、助言などいただきながら、施設運営をすすめました。グループホームでの入居者様の暮らしはコロナ禍の中、外出・面会などの制限ある中での船出となりました。

2. 新型コロナ禍の中、施設運営では、クラスターを発生させない感染予防対策に終始する1年となりました。地域との交流ができない中、地域版あがうらだよりの回覧地域が1町内増加し、13自治会480班となりました。秋葉区内関連事業所「地域とつながる会議」で、ウオームを会場としての地域交流イベント開催をすすめました。
3. 令和3年4月よりの同一労働・同一賃金の法施行に向けて、65歳定年制、パート職員への賞与支給など、労働環境の改善に取り組みました。8月より労働組合とともに法人ハラスメント委員会を定期開催し、職員の相談等への対応をすすめました。

【事業運営総括】

<特別養護老人ホームあがうら>

1. 利用者の視点に立ち、入所・入居者、利用者のサービスの向上、地域の一員としての交流を深めました。

- ・入居者の聞き取りは、85人/100人、希望の実現は55人/100人となりました。その取り組み内容を令和3年地域版あがうらだより新春号で地域に発信しました。
- ・ケア計画と共に、入居者の1日の生活の流れがわかる24時間シートの見直し作成は多職種ですすめ、4月より全入居者のご家族へ提示しました。
- ・新型コロナ禍のもと、家族懇談会・ボランティア交流会、地域との交流はすべて中止としました。

2. 介護の質・業務改善の視点に立ち、ケアの質の向上に努めました。

- ・入居時、ケアプラン更新時のリスクアセスメント（転倒・転落、誤嚥・窒息）を1月よりご家族への提示を開始しました。
- ・入居者の口腔衛生の向上のために、4月より歯科衛生士による月2回の入所・入居者への個別ケアに取り組みました。歯科往診も含め全入居者へのかかわりが行えました。歯科衛生用品の効果的使用についての指導の下、補充のルールも明確にしました。
- ・新潟市への事故報告は7件でした。発生した事故・ヒヤリハットの対策は迅速に検討できました。
- ・入居者様よりの苦情は4件ありました。ケア時の声掛け、態度など統一した対応を求められ、各ユニットで検討し改善につとめました。
- ・新潟民医連安全学習、新型コロナ感染対策学習に全職員が参加し感染対策を強めました。
- ・新型コロナ感染対応としての事業継続計画を作成しました。

3. 技術建設・人材育成、成長の視点に立ち、民医連職員の育成をすすめました。

- ・年1回以上の全職員面接を84%の職員に実施しました。パート職員への面接が課題です。
- ・全ユニットで9事例のまとめに取り組み、新潟民医連介護職部会へ1事例（職員育成）発表しました。他、新潟民医連学術運動交流集会へ1演題（口腔ケア）、新潟民医連

看護介護活動研究交流集会上に1演題（入居者様の身だしなみケア）発表しました。

- ・外部研修はコロナ禍によるほぼオンライン研修となり20研修に77名参加、施設内研修は13回開催延べ373人の参加となりました。

ライセンス取得は3月末現在 特養介護福祉士48名（比率76%）、グループホーム13名（比率81%）、特養喀痰吸引資格者は36名（比率58%）、介護支援専門員1名取得。社会福祉主事任用資格1名取得。

4. 地域や社会とともにの視点での取り組みを進めました。

- ・全日本民医連「第44回民医連総会」DVD学習は9割の職員が参加し、社会の変化やかえつ福祉会の地域での役割を学びました。
- ・地域への施設解放は新型コロナ禍の中、中止としました。

5. 健全な経営収支を確保しました。

- ・特養入居率93.7%、ショートステイ利用率は80.5%となり、入居率は予算に達した。
- ・介護職員14名、看護職員1名を確保しました。

<グループホームあがうら和>

2020年3月16日より新たな職員集団と共に事前研修を重ね、4月よりグループホーム和を開設しました。

新型コロナ禍の影響もみられる中、10月に18名満室。入居20名、退所2名、年間入居率86.2%でした。退去理由は、他グループホームへの入居1名、入院によりグループホームでの共同生活が困難となったため1名でした。

新型コロナ感染予防対策のため、6月中旬から11月中旬以外は面会、外出等を厳しく制限する中での運営となりました。

地域密着型サービス事業所として、2か月に1回の運営推進会議をホーム内で4回、感染拡大が進む期間は書面で2回（5月、3月）実施しました。ご家族、包括支援センター、阿賀浦コミ協、協力病院、協力施設、他グループホームよりの参加を得、各参加者からの意見、助言などいただきながら、施設運営をすすめました。

1. 入居者の立場に立ったかわり、それぞれの思いを大切にするケアに向けて取り組みました。

ケアの目指す方向について、開設前職員研修にて、グループホームあがうら和運営理念を作成しました。その運営理念を踏まえてケアプランを作成、各居室担当者の個別援助計画に沿った日々のケアについて職員間で周知徹底し、ケアの統一をすすめました。

家庭的な雰囲気の中で、季節を感じられる行事やおひとりおひとりが役割をもって生活していただけるよう環境をととのえました。

2. ご家族との結びつきを大切にしました。

コロナ禍の中、開設前に予定した施設見学会を急遽中止するなど、地域、ボランティアさんとの交流、結びつきの方針は取り組めませんでした。ご家族との自由な面会、外出も制限し、月1回の受診が唯一の面会という状況となりました。そのような状況の中で、受診時以外はご家族様へはお電話でご様子をお伝えしたり、ユニット職員より月1回ご

家族へのお手紙を継続し、施設内での入居者のご様子を伝えました。11月よりオンライン面会を開始しましたが、1件のみにとどまりました。入居者、ご家族様ともども新しい生活への戸惑い、不安もある中、すべてのご家族様へ運営推進会議への参加をお知らせし、参加ご家族からの声をケアに生かせるようとりくみました。

3. 介護の質、業務改善の視点に立ちケアの向上に努めました。

- ・月1回ユニット会議を開催し、業務・運営のルールを確立してきました。
- ・新潟市への事故報告0件。繰り返すヒヤリハットは、業務改善をはかりました。
- ・第三者委員等も含め、苦情 0件。ご家族からのご要望・ご心配等については、その都度対応しました。
- ・施設内学習は、協力施設の特養とともにすすめ、参加しました。
コロナ感染対策研修は全職員が参加しました。
- ・外部研修
認知症実践者研修は人数が制限される中、受講不決定となりました。
新潟市認知症実践リーダー研修参加1名、介護支援専門員更新研修1名参加。
- ・防火訓練4回、水害訓練1回実施しました。地域の方々と協力した防災訓練は実施できませんでした。

4. 人材育成、働きやすい職場環境づくりをすすめました。

- ・9月 コロナ感染対策について全職員学習、グループ討議を行い理解を深めました。
- ・10月 開設半年後に全職員面談を行い、職場運営にいかしました。
- ・2月 外部講師「職場のコミュニケーション活性化」研修を開催しました。
- ・新しく介護福祉士免許登録者3名、介護福祉士比率81%となりました。

以上